

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【算数科】

1. 対象 自分から学ぼうとする意欲をもてる場が少ない。一方的に考えを伝えられるが、双方向的なやりとりや深め合いにはなっていないことが多い。「伝え合う」活動の成果を確認する方法がなく、伝え合って学んでいる実感がもてない。
2. 単元（題材）名 「 データの見方 ～みんなが笑顔になる図書館をつくろう～」（全11時間）
3. 単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・平均値や代表値などの意味や求め方、度数分布表やグラフの特徴とそれらの用い方を理解している。
思考力、判断力、表現力等	・目的に応じてデータの特徴や傾向に着目し、問題の結論について判断しているとともに、その妥当性について批判的に考察をしている。
学びに向かう力、人間性等	・データを分析することを通して、多面的に物事を捉え、検討している。また、数学的に表現・処理することの良さに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

4. 本時の目標

※「5」を単元（題材）で作成する場合は省略可能です。

5. 授業展開【本時・単元（題材）】 ※本時または単元（題材）いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

データをもとに、「みんなが笑顔になる図書室」をつくろう。

考えるための材料

- ・ジグソー学習（本の種類ごとの1冊あたりの平均価格・学年団ごとの好きな本の種類・学年団ごとの1年間で借りた冊数・学年団ごとの「図書室にこうなってほしい」意見アンケート）の資料

想定される活動

- ・平均価格は図鑑が一番高い。 ・好きな本の種類は学年ごとに違っている。
- ・高学年は、本をあまり読んでいない。 ・新しい本を欲しい人もいるけど、学年団ごとに意見が違う。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・4人グループで話し合いを行う。①自分のまとめたデータを伝える活動②グループのデータを比較しながら本の購入冊数を決める話し合いの2回行う。②の話し合いは20分程度。データを基に、話し合いを行うよう声掛けをする。
- ・持ち寄ったデータを比較し、友達の意見を参考にしながら本の購入冊数を考えている。

学習の成果（予想される子供のあらわれ）

- ・いろいろなデータを比べることで、どの本をどれくらい買うか決めることができた。
- ・友達と話すことで、自分では気づけなかった考えに気付くことができた。
- ・自分だけのデータだけだと、分からないことでも友達のも見ると気付くことがあった。